

## < マニュアル訂正連絡票 >

# ASP Systemwalker CM エージェント説明書 V17

[J2K0-1063-02]

2017年8月30日発行

修正箇所(章節項): 2.1 機能概要

### 旧記事

#### ・メッセージ送信機能

本システムで発生したシステムメッセージおよびユーザメッセージを Systemwalker Centric Manager 運用(部門)サーバ上で動作するシステム監視機構に送信する機能である。

システムメッセージおよびユーザメッセージの授受は、Systemwalker CM エージェント起動時に作成されるメッセージキューを仲介として行われる。本システムで起動された Systemwalker CM エージェントは、このメッセージキューから、システムメッセージおよびユーザメッセージを取り出し、ソケット経由で Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバへメッセージを転送する。

Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバは、受信した ASP のシステムメッセージおよびユーザメッセージをシステム監視ウィンドウへ統一された形式で表示する。

メッセージ送信機能を用いることによって、Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバのシステム監視ウィンドウで、ASP の各種通知メッセージを監視することが可能になる。ASP のメッセージ監視によって、システム運用管理者は ASP システムへの非同期な対応が可能となる。

### 新記事

#### ・メッセージ送信機能

本システムで発生したシステムメッセージおよびユーザメッセージを Systemwalker Centric Manager 運用(部門)サーバ上で動作するシステム監視機構に送信する機能である。

システムメッセージおよびユーザメッセージの授受は、Systemwalker CM エージェント起動時に作成されるメッセージキューを仲介として行われる。本システムで起動された Systemwalker CM エージェントは、このメッセージキューから、システムメッセージおよびユーザメッセージを取り出し、ソケット経由で Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバへメッセージを転送する。

Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバは、受信した ASP のシステムメッセージおよびユーザメッセージをシステム監視ウィンドウへ統一された形式で表示する。

メッセージ送信機能を用いることによって、Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバのシステム監視ウィンドウで、ASP の各種通知メッセージを監視することが可能になる。ASP のメッセージ監視によって、システム運用管理者は ASP システムへの非同期な対応が可能となる。

ASP から送信されたメッセージは、以下の形式で Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバに表示される。

発信元大区分：発信元小区分：メッセージレベル：メッセージ番号：メッセージ本文'補足情報'<発信元名.発信元名補足>

例)

SC:JOB:警告:\$5801:B ジョブが異常終了した 'PPGM=0000,PGM=0xx8,EPGM=0000' <SPJOB.XSYSOPR>

## 記述形式

コマンド名	オペランド
STRMPWKA	RMTNAME- { '集中監視マネージャホスト名' } { 'マネージャホストIPアドレス' }  [ , PORT- { <u>9294</u> } ] { ポート番号 } ]  [ , LEVEL- { メッセージレベル[/ <u>...</u> ] } ] { @ALL } { @A } { @B } { @C } ]  [ , CNRYTIM- { <u>300</u> } ] { 接続リトライ時間 } ]  [ , TIME- { <u>0</u> } ] { 無通信監視時間 } ]  [ , MQD- { @NONE } ] { メッセージキュー記述名, ライブラリ名 } ]  [ , PATH- 'ユーザメッセージ監視情報パス名' ]  [ , RETRY- { @YES } ] { @NO } ]

記述形式

コマンド名	オペランド
STRMPWKA	RMTNAME- { '集中監視マネージャホスト名' } { 'マネージャホストIPアドレス' }  [ , PORT- { <u>9294</u> } ] { ポート番号 } ]  [ , LEVEL- { メッセージレベル[ /... ] } ] { @ALL @A @B @C } ]  [ , CNRYTIM- { <u>300</u> } ] { 接続リトライ時間 } ]  [ , TIME- { <u>0</u> } ] { 無通信監視時間 } ]  [ , MQD- { @NONE } ] { メッセージキュー記述名, ライブラリ名 } ]  [ , PATH- 'ユーザメッセージ監視情報パス名' ]  [ , RETRY- { @YES } ] { <u>@NO</u> } ]

2009年7月10日発行

修正箇所(章節項): 3.2 バッチコマンド実行環境の作成

以下の内容は、V25 (U08121 適用時以降) に限定される記事です。

「3.2.2 ジョブ記述の作成」と「3.2.3 キュードジョブスケジューラの起動」の間に新記事を追加して下さい。

### 3.2.3 バッチコマンド実行プロフィール定義の作成

V24 までの Systemwalker CM エージェントでは、バッチコマンドの実行プロフィールは XSYSTEMGR が使用されている。V25 以降では、バッチコマンドの実行プロフィールで使用するプロフィールを定義することができる。ただし、バッチコマンド実行機能を使用するキュードジョブスケジューラは、9文字以上のパスワードを持つプロフィールを使用できないため、定義できるプロフィールは8文字以下のパスワードを持つプロフィールに限られる。

バッチコマンド実行プロフィール定義の作成方法を以下に示す。

利用者共通ライブラリ (XUCL) に、以下のエンティティ名、属性、種別で原始テキストを作成する。

エンティティ名 : XNPRPROF

ライブラリ名 : XUCL

属性(ATTR) : @SRC  
種別(KIND) : @OTR

バッチコマンド実行機能で使用するプロフィールを、原始テキストの先頭カラムから記述する。なお、先頭カラムに '#' を指定した場合は、コメント行とみなされる。

```
CRTSRC(V14-L10)
コマンド →
****.** .....1....*....2....*....3....*....4....*....5....*....6....*....7.
1.00 #####
2.00 # バッチコマンド実行機能用プロフィール名
3.00 #####
4.00 BATPROF1
    *** データの終わり ***
```

セキュリティの観点から、作成した原始テキストがシステム管理者以外のプロフィールで更新できないよう、公的認可情報を設定しておくことが望ましい。バッチコマンド実行時に上記の原始テキストが存在しない場合は、XSYSMNGR が指定されたものとして動作する。

注 1:

V25 以降では、プロフィールに有効期限切れ等の状態が付加されている。バッチコマンド実行時に指定されたプロフィールの状態が正常以外の場合、以下のメッセージが表示され、バッチコマンドの実行に失敗する。

```
S7901 B SYSTEMWALKER にて事象が発生した
JOB ENTRY REQUEST FAILED,[補足情報]
```

メッセージの意味や対処方法については“ASP システムメッセージ集”を参照されたい。

注 2:

バッチコマンド実行プロフィール定義に、記述上の誤りがある場合は、Systemwalker CM エージェントの起動時に「S1560 原始テキストの形式が正しくない」となり、実行に失敗する。

### 3.2.3 キュードジョブスケジューラの起動

作成したジョブキューに対して、STRQJS コマンドを用いてキュードジョブスケジューラを起動する。STRQJS コマンドの詳細は“ASP システムコマンド集”を参照されたい。

・キュードジョブスケジューラの起動例

```
STRQJS QJS-MPW, SPLQ-XJOBQ1
```

注 1:

Systemwalker CM エージェントにおけるバッチコマンドの実行プロフィールは XSYSMNGR である。XSYSMNGR のプロフィールで実行できないバッチコマンドがシステムに存在する。(例:ACTDEV D。本コマンドは XSIP のみで実行可能) このようなコマンドをリモートコマンドとして実行すると、以下の通知メッセージが出力され、キュードジョブが異常終了する。

```
通知メッセージ「s5801 ジョブが異常終了した」  
メッセージレベル B
```

各コマンドの実行プロフィールの詳細は“ASP システムコマンド集”を、通知メッセージの詳細は“ASP システムメッセージ集”を参照されたい。

注 2:

バッチコマンドは、STRQJS コマンドが投入されると実行される。STRQJS コマンドの投入を実施せずにリモートコマンドを投入すると、Systemwalker CM エージェントは、最大 999 回のコマンド投入まで正常受付する。

1000 回目のコマンド投入においては、以下のメッセージが出力される。

```
通知メッセージ「s7901 SYSTEMWALKERにて事象が発生した」  
メッセージレベル B  
詳細情報「JOB ENTRY REQUEST FAILED.0671.XSYSMNGR.XNPJDCMD」
```

### 3.2.4 キュードジョブスケジューラの起動

作成したジョブキューに対して、STRQJS コマンドを用いてキュードジョブスケジューラを起動する。STRQJS コマンドの詳細は“ASP システムコマンド集”を参照されたい。

#### ・キュードジョブスケジューラの起動例

```
STRQJS QJS-MPW, SPLQ-XJOBQ1
```

注 1:

V24までのSystemwalker CMエージェントにおけるバッチコマンドの実行プロファイルはXSYSMNGRであり、XSYSMNGRのプロファイルで実行できないバッチコマンドがシステムに存在する。また、V25以降ではバッチコマンドの実行プロファイルとして、XSYSMNGR以外のプロファイルも指定できるが、指定したプロファイルの特殊権限により実行できないバッチコマンドがシステムに存在する。(例:ACTDEVD。本コマンドはXSIPのみで実行可能)このようなコマンドをリモートコマンドとして実行すると、正常に実行されず、以下の通知メッセージが出力され異常終了される。

```
通知メッセージ「s5801 ジョブが異常終了した」  
メッセージレベル B
```

このような場合、下記のいずれかの対処を実施されたい。

- 実行するバッチコマンドに合わせ、適切なプロファイルを使用する。
- バッチコマンドを実行する上で必要な権限をプロファイルに付加する。

各コマンドの実行に必要な特殊権限は“ASP システムコマンド集”を、通知メッセージの詳細は“ASP システムメッセージ集”を参照されたい。

注 2:

バッチコマンドは、STRQJS コマンドが投入されると実行される。STRQJS コマンドの投入を実施せずにリモートコマンドを投入すると、Systemwalker CM エージェントは、最大 999 回のコマンド投入まで正常受付する。

1000 回目のコマンド投入においては、以下のメッセージが出力される。

```
通知メッセージ「s7901 SYSTEMWALKERにて事象が発生した」  
メッセージレベル B  
詳細情報「JOB ENTRY REQUEST FAILED.0671.XSYSMNGR.XNPJDCMD」
```